

平成 26 年度佐久市の取り組みへの
満足度・重要度及び
住みやすさ感・健康感・幸福感
に関する市民アンケート

報 告 書

(平成 26 年 9 月 5 日～平成 26 年 9 月 24 日調査)

I	調査の設計	1
II	結果の概要	4
III	質問ごとの内容	14
IV	単純集計	90
V	調査票	101



佐久市

I 調査の設計

1 アンケート調査の目的

少子高齢化社会の進行や依然として厳しさが続く社会経済情勢、一層求められる地方分権への対応など、私たちを取り巻く環境は変化を続けている。

本市では、このような時代に的確に対応しつつ、今まで以上に簡素で効率的な行政経営を行うため、様々な施策や事業ごとに評価を行い、今後の各施策の方向性を判断する「行政評価」を実施し、事業の選択と集中を図っているところである。

また、本市では重点施策の一つに「世界最高健康都市の構築」を掲げている。

こうした点を踏まえ、このアンケートは次の2つの目的により実施する。

- (1) 第一次佐久市総合計画に基づいて実施している市の取り組みに市民が満足しているのか、その施策を今後も必要としているのかといった意見・意向を把握するとともに、経年変化も踏まえた分析結果を行政評価の判断に用いる。
- (2) 「世界最高健康都市の構築」の実現に向け、市民が感じている「住みやすさ感」「健康感」「幸福感」を高めていくことを目標としていることから、この3つの項目に関する意識を把握・分析する。

2 調査の設計

●調査対象

市内に住所を有する16歳以上の男女1,000人

●抽出方法

住民基本台帳から無作為抽出

●調査方法

郵送

●調査期間

平成26年9月5日～平成26年9月24日

●有効回答

514人（回収率 51.4%） 男性233人 女性281人

●集計・分析

一般社団法人長野県世論調査協会

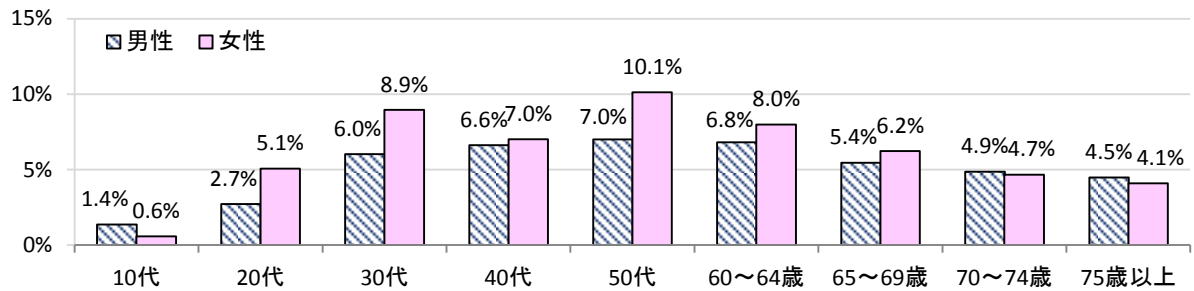
<注> 報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。
文中のパーセント数字は原則として小数点以下を四捨五入した。

回収サンプルの内訳

【性別と年代】

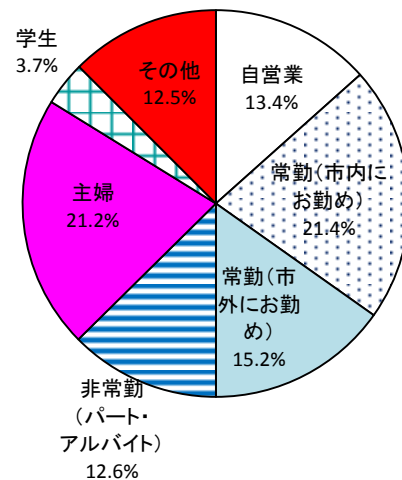
回答者数（人） 回答割合（％）

	合計	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
全体	514	10	40	77	70	88	76	60	49	44
	100.0	1.9%	7.8%	15.0%	13.6%	17.1%	14.8%	11.7%	9.5%	8.6%
男性	233	7	14	31	34	36	35	28	25	23
	45.3%	1.4%	2.7%	6.0%	6.6%	7.0%	6.8%	5.4%	4.9%	4.5%
女性	281	3	26	46	36	52	41	32	24	21
	54.7%	0.6%	5.1%	8.9%	7.0%	10.1%	8.0%	6.2%	4.7%	4.1%



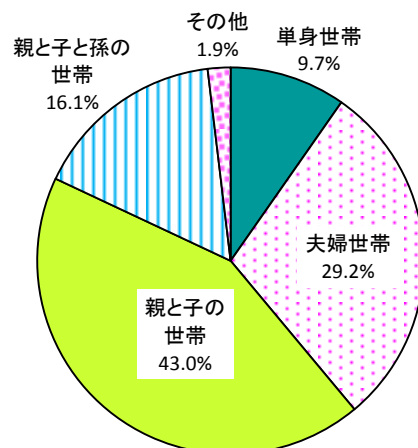
【職業】

自営業	69	13.4%
常勤(市内にお勤め)	110	21.4%
常勤(市外にお勤め)	78	15.2%
非常勤(パート・アルバイト)	65	12.6%
主婦	109	21.2%
学生	19	3.7%
その他	64	12.5%



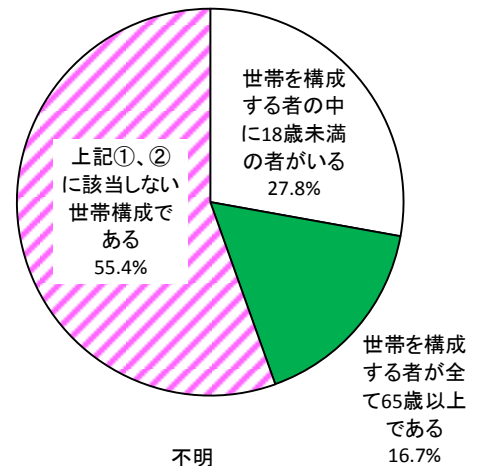
【世帯構成(その1)】

単身世帯	50	9.7%
夫婦世帯	150	29.2%
親と子の世帯	221	43.0%
親と子と孫の世帯	83	16.1%
その他	10	1.9%



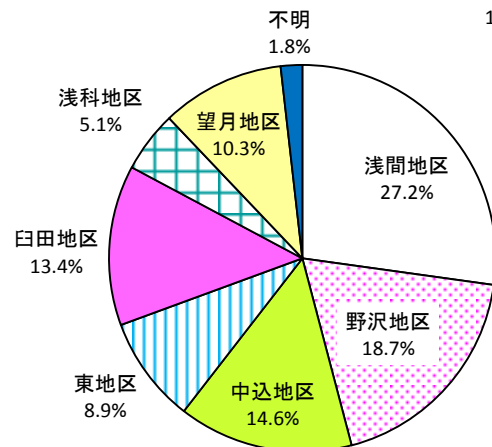
【世帯構成(その2)】

世帯を構成する者の中に18歳未満の者がいる	143	27.8%
世帯を構成する者が全て65歳以上である	86	16.7%
上記①、②に該当しない世帯構成である	285	55.4%



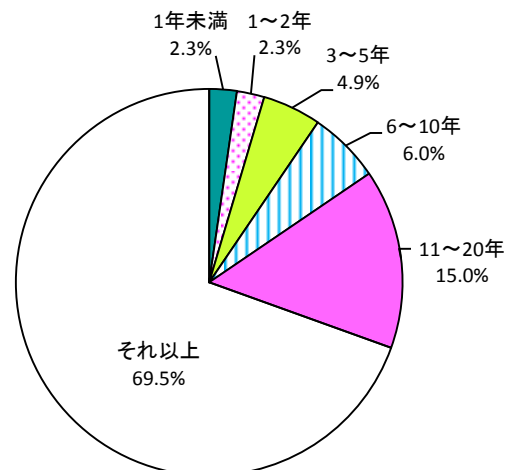
【お住まいの地域】

浅間地区	140	27.2%
野沢地区	96	18.7%
中込地区	75	14.6%
東地区	46	8.9%
臼田地区	69	13.4%
浅科地区	26	5.1%
望月地区	53	10.3%
不明	9	1.8%



【佐久市の在住年数】

1年未満	12	2.3%
1～2年	12	2.3%
3～5年	25	4.9%
6～10年	31	6.0%
11～20年	77	15.0%
それ以上	357	69.5%



Ⅱ 結果の概要

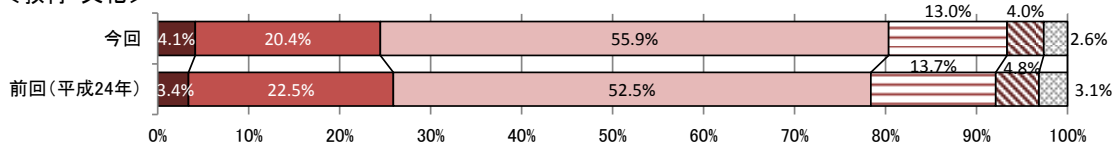
▽佐久市の主要施策への満足度・重要度

施策の分野別満足度

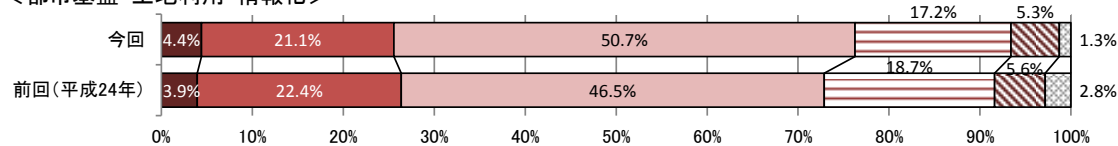
施策の満足度を6分野、48項目について分野ごとに集計した。「満足」「やや満足」の回答が多いのは「環境」の29.7%で、次いで「保健・医療・福祉」(27.1%)、「都市基盤・土地利用・情報化」(25.5%)と続いている。前回の平成24年度と比較すると「産業」で1.8ポイント、「市民生活と満足度の向上」で1.1ポイント満足が増加したが、「環境」では5.2ポイント減少している。

「不満」「やや不満」の回答が多いのは「産業」の23.7%で、「都市基盤・土地利用・情報化」(22.5%)、「教育・文化」(17.0%)、「保健・医療・福祉」(16.9%)と続き、最も不満が少なかったのは「市民生活と満足度の向上」の14.0%であった。全分野で前回調査より不満が減少しており、最も減少幅が大きいのは「環境」の3.0ポイントであった。

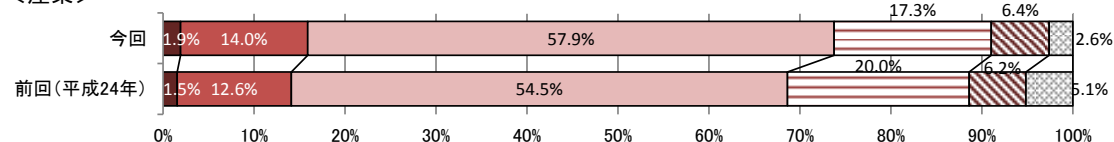
<教育・文化>



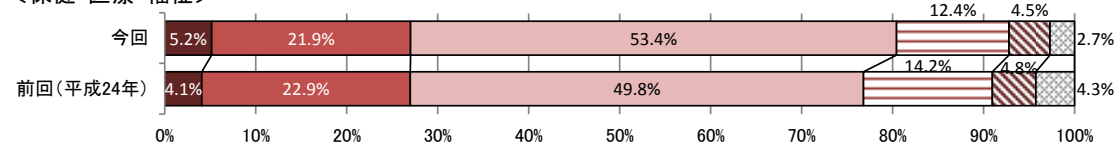
<都市基盤・土地利用・情報化>



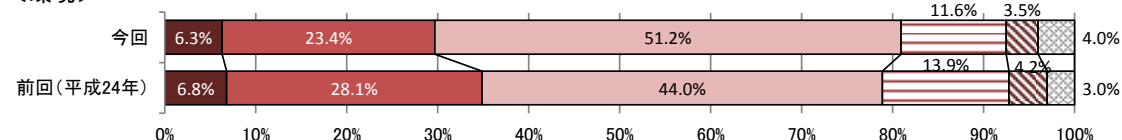
<産業>



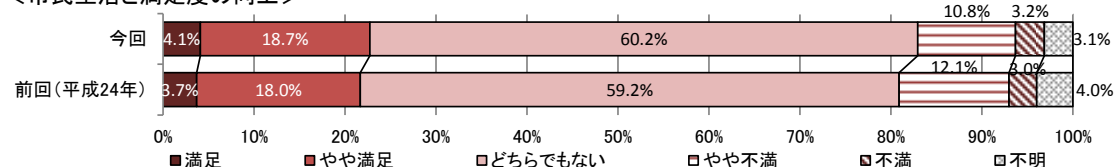
<保健・医療・福祉>



<環境>

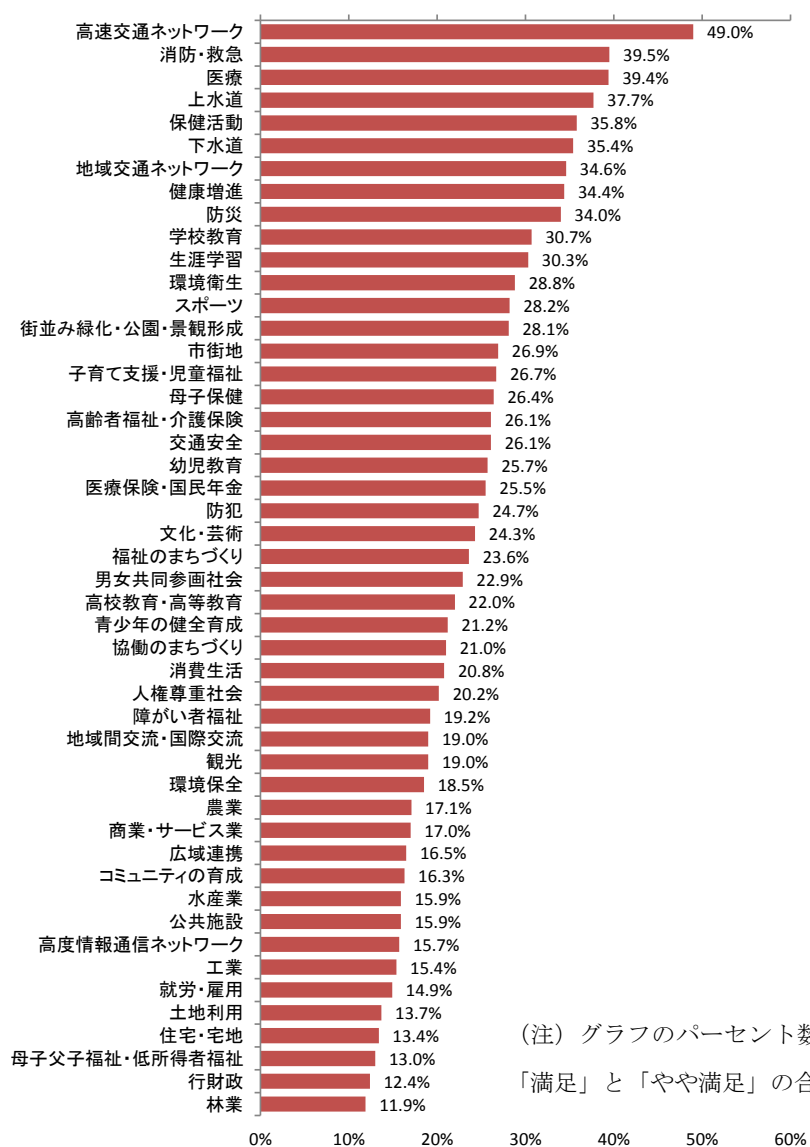


<市民生活と満足度の向上>



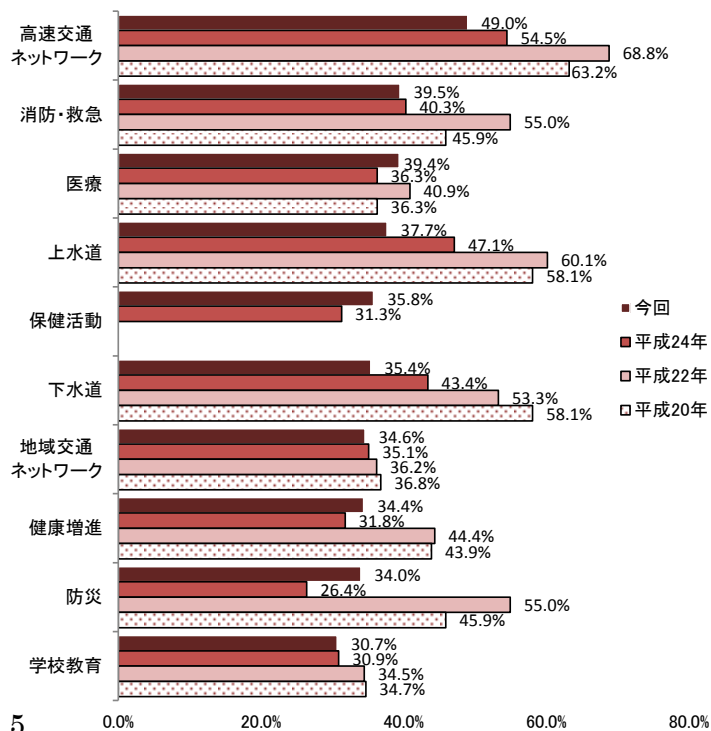
(注) グラフのパーセント数字は各分野に含まれる全項目の平均。6ページの分野別重要度も同様。

個別施策の満足度



(注) グラフのパーセント数字は
「満足」と「やや満足」の合計

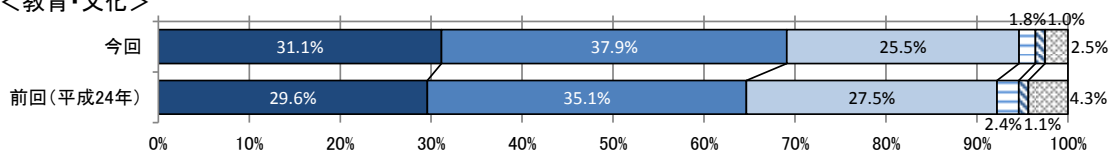
各施策の満足度で最も高かったのは「高速交通ネットワーク」で、全体で49.0%であった。次いで「消防・救急」、「医療」、「上水道」、「保健活動」と続く。



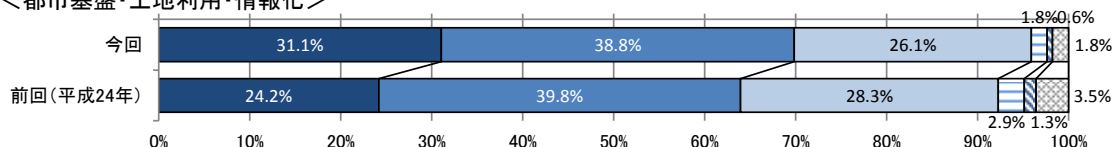
施策の分野別重要度

施策の重要度について、分野別集計で「重要」「やや重要」の回答が多いのは「保健・医療・福祉」の77.2%、次は「環境」で71.9%であった。平成24年の前回調査と比べると「産業」が全体で7.4ポイント増で、「都市基盤・土地利用・情報化」(5.9ポイント増)、「市民生活と満足度の向上」(5.8ポイント増)、「保健・医療・福祉」(5.7ポイント増)、「教育・文化」(4.3ポイント増)と全体的に重要度が増加しているが、「環境」のみ1.4ポイント減少している。

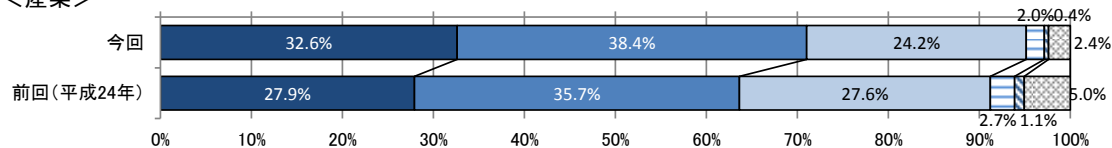
<教育・文化>



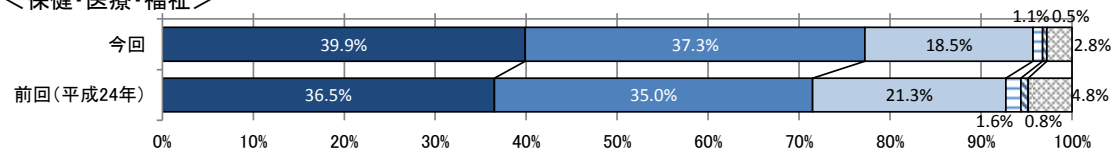
<都市基盤・土地利用・情報化>



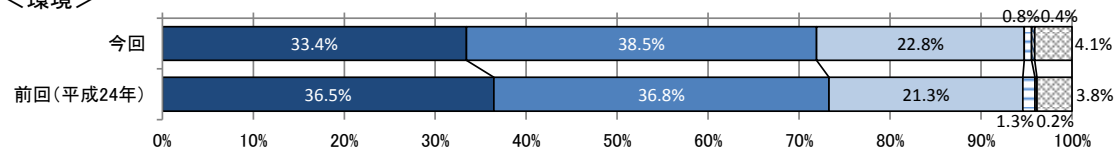
<産業>



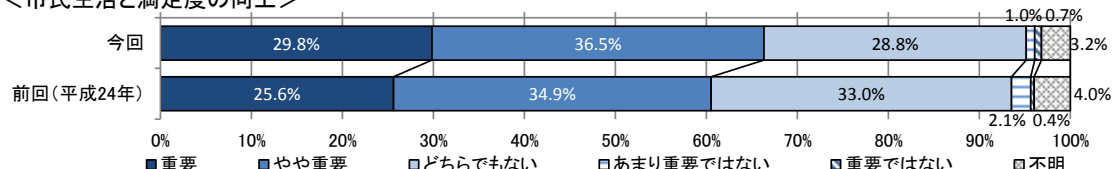
<保健・医療・福祉>



<環境>

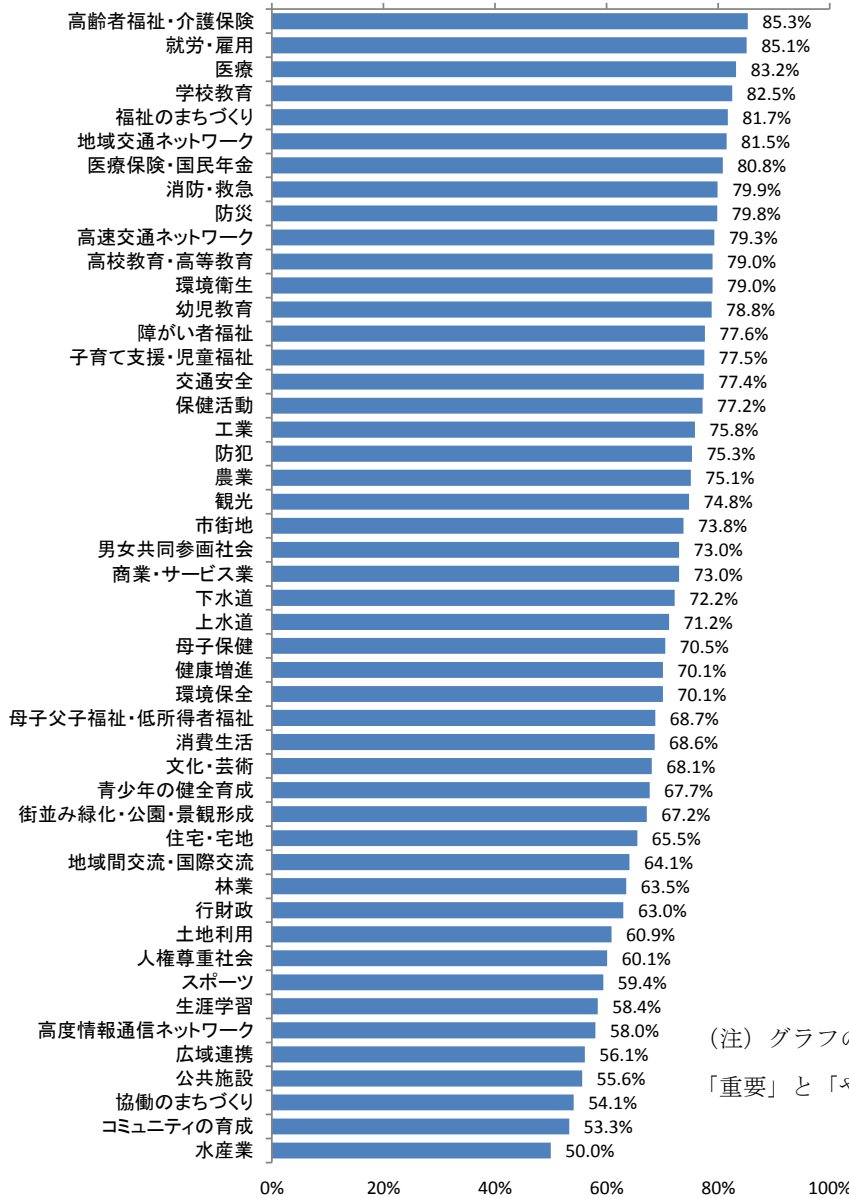


<市民生活と満足度の向上>



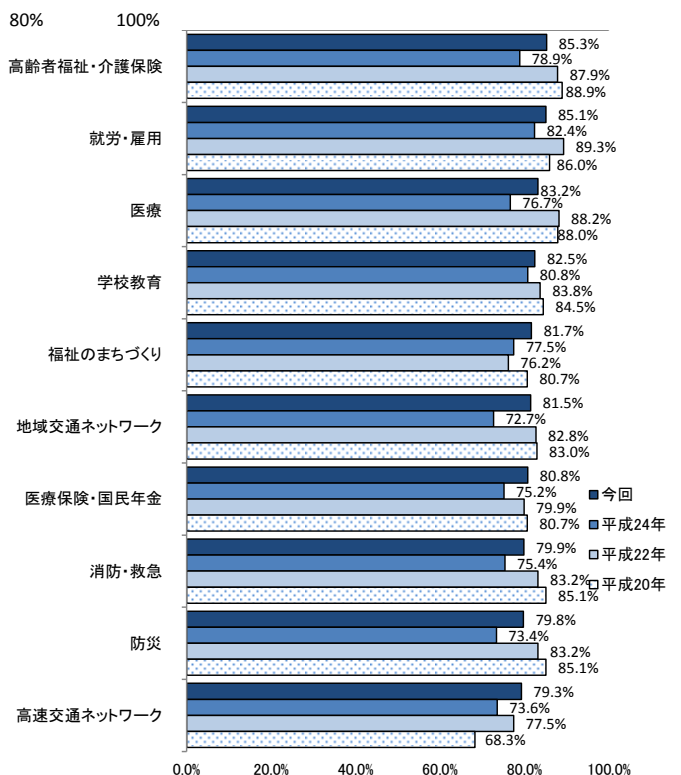
■重要 ■やや重要 □どちらでもない □あまり重要ではない □重要ではない □不明

個別施策の重要度



(注) グラフのパーセント数字は
「重要」と「やや重要」の合計

施策の重要度では「高齢者福祉・介護保険」が85.3%で最も高かった。次が「就労・雇用」で85.1%、「医療」が83.2%であった。「地域交通ネットワーク」が前回調査の16位(72.7%)から6位(81.5%)に順位を上げているのが目立っている。

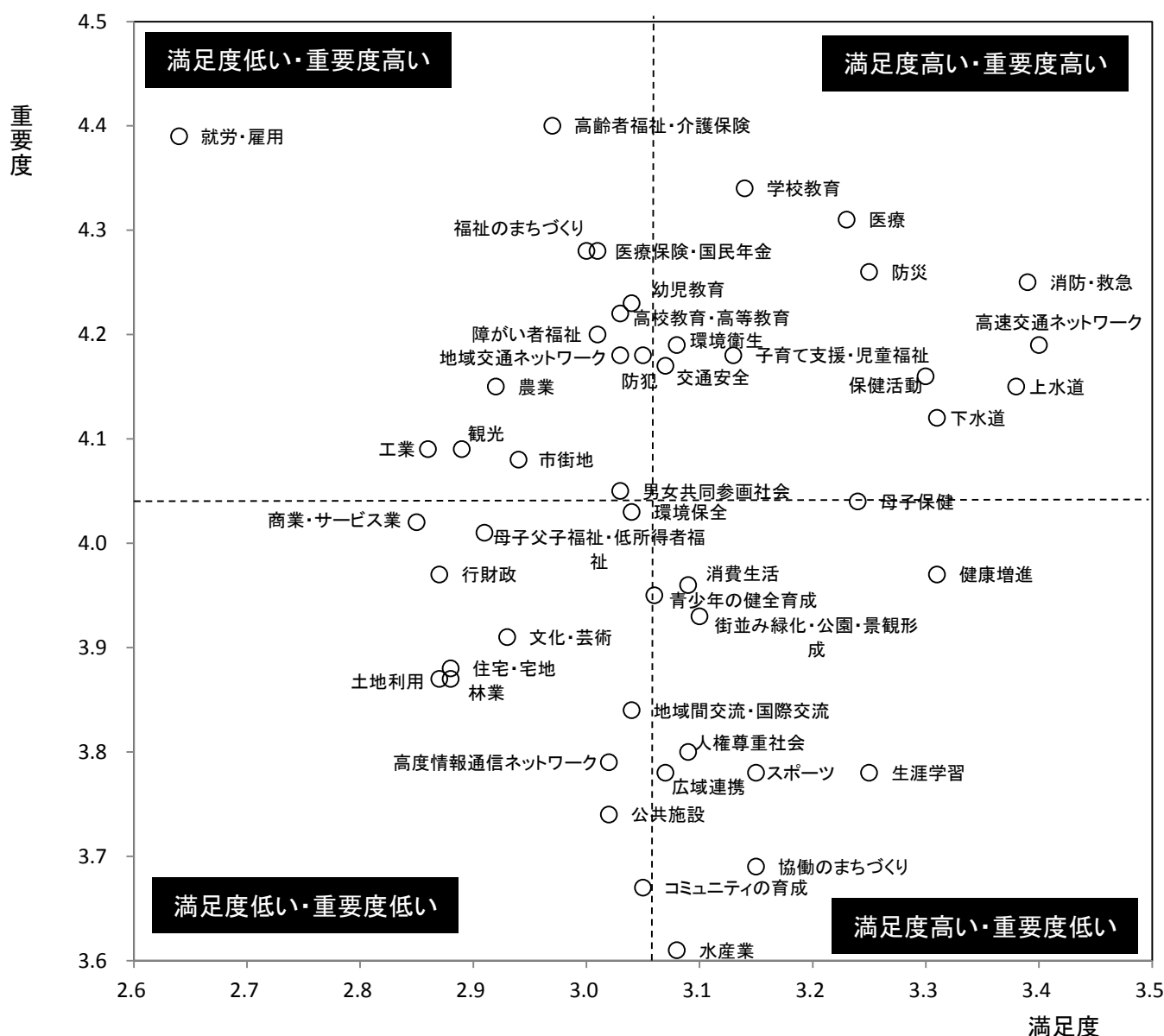


各施策の満足度・重要度の平均点比較

図は各施策の満足度・重要度を得点化し、全回答者の平均値をプロットしたもので、点線は全質問の平均値（満足度 3.06、重要度 4.04）を表している。

4 分割されている領域の右上が満足度・重要度がともに高い項目で、左上は満足度が低く重要度が高い項目、右下は満足度は高いが重要度が低い項目、左下は満足度、重要度ともに低い項目である。

最も満足度が高いのは「高速交通ネットワーク」の 3.40 で、次いで「消防・救急」(3.39)、「上水道」(3.38) と続いている。また満足度が低かったのは「就労・雇用」(2.64)、「商業・サービス業」(2.85)、「工業」(2.86) であった。



重要度が最も高かったのは「高齢者福祉・介護保険」の平均値 4.40 で、次いで平成 24 年度、平成 22 年度調査でトップだった「就労・雇用」(4.39) であった。以下、「学校教育」(4.34)、「医療」(4.31)、「福祉のまちづくり」(4.28) と続く。逆に重要度が低かった項

目は「水産業」(3.61)、「コミュニティの育成」(3.67)、「協働のまちづくり」(3.69)、「公共施設」(3.74)であった。

「就労・雇用」は4回連続で満足度が最も低かったが、前回調査から0.18上昇し、過去4回調査で最も高い。重要度は前回と同じく2番目で、依然として喫緊の課題と考えられる。

「消防・救急」「高速交通ネットワーク」は満足度と重要度がともに高い。逆に両方とも低いのは「土地利用」「林業」「住宅・宅地」であった。

(注)「満足」・「重要」を5点、「やや満足」・「やや重要」を4点、「どちらでもない」を3点、「やや不満」・「あまり重要ではない」を2点、「不満」・「重要ではない」を1点として平均点を集計した。

各施策の平均点

＜満足度＞	今回	平成24年	平成22年	平成20年
高速交通ネットワーク	3.40	3.45	3.75	3.68
消防・救急	3.39	3.40	3.46	3.25
上水道	3.38	3.45	3.59	3.50
健康増進	3.31	3.25	3.25	3.21
下水道	3.31	3.37	3.37	3.50
保健活動	3.30	3.23		
生涯学習	3.25	3.25	3.33	3.39
防災	3.25	3.13	3.46	3.25
母子保健	3.24	3.14		
医療	3.23	3.11	2.93	2.75
スポーツ	3.15	3.02	3.04	3.11
協働のまちづくり	3.15	3.10	3.16	3.12
学校教育	3.14	3.02	2.79	2.82
子育て支援・児童福祉	3.13	3.20	3.30	3.39
街並み緑化・公園・景観形成	3.10	2.93	2.84	2.85
人権尊重社会	3.09	3.08	3.14	3.10
消費生活	3.09	3.04	2.94	2.84
水産業	3.08	3.01	3.19	2.80
環境衛生	3.08	3.16	2.82	2.81
交通安全	3.07	3.16	3.18	3.15
広域連携	3.07	3.04		
青少年の健全育成	3.06	3.04	2.97	2.98
防犯	3.05	3.07	2.93	2.86
コミュニティの育成	3.05	3.05		
地域間交流・国際交流	3.04	3.01	3.03	3.15
幼児教育	3.04	3.13	2.79	2.82
環境保全	3.04	3.07	2.90	2.71
男女共同参画社会	3.03	3.10	2.93	
高校教育・高等教育	3.03	2.99		
地域交通ネットワーク	3.03	3.06	2.72	2.74
高度情報通信ネットワーク	3.02	3.01	3.16	3.09
公共施設	3.02	2.93		
障がい者福祉	3.01	2.99	2.84	2.85
医療保険・国民年金	3.01	2.82	2.91	2.74
福祉のまちづくり	3.00	3.07	3.03	2.96
高齢者福祉・介護保険	2.97	3.00	2.79	2.83
市街地	2.94	2.80	2.91	2.96
文化・芸術	2.93	2.99	3.02	3.10
農業	2.92	2.93	2.44	2.41
母子父子福祉・低所得者福祉	2.91	2.94	2.75	2.75
観光	2.89	2.85	2.65	2.90
住宅・宅地	2.88	2.88	2.91	2.96
林業	2.88	2.84	2.57	2.80
土地利用	2.87	2.82		
行財政	2.87	2.84	2.64	2.57
工業	2.86	2.82	2.56	2.75
商業・サービス業	2.85	2.86	2.50	2.55
就労・雇用	2.64	2.46	2.03	2.26

*は今回と表現が異なる項目

- *1 平成20年は「上水道、下水道」
- *2 平成20年は「林業・水産業」
- *3 平成20年は「差別のない社会」
- *4 平成20年は「自然環境・生活環境」
- *5 平成22年は「防災・消防」
- *6 平成22年は「学校教育・幼児教育」
- *7 平成22年は「市街地・住宅地」
- *8 平成22年は「一人親家庭・低所得者の福祉」
- *9 平成22年は「ごみ・リサイクル」

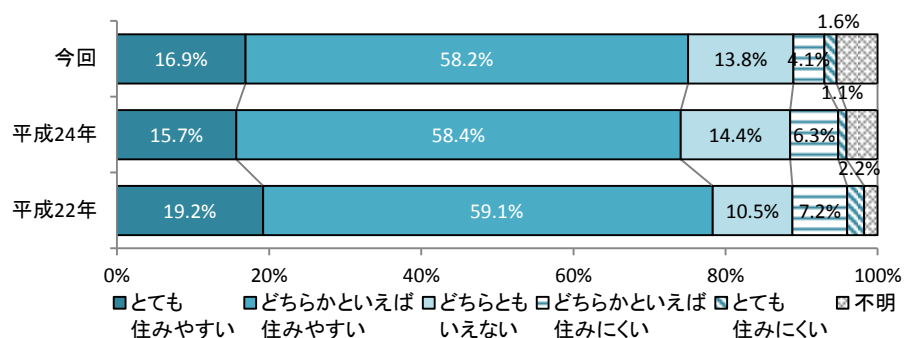
＜重要度＞	今回	平成24年	平成22年	平成20年
高齢者福祉・介護保険	4.40	4.29	4.52	4.59
就労・雇用	4.39	4.38	4.64	4.57
学校教育	4.34	4.39	4.48	4.55
医療	4.31	4.27	4.57	4.74
福祉のまちづくり	4.28	4.16	4.18	4.35
医療保険・国民年金	4.28	4.24	4.32	4.49
防災	4.26	4.14	4.44	4.46
消防・救急	4.25	4.21	4.44	4.46
幼児教育	4.23	4.25	4.48	4.55
高校教育・高等教育	4.22	4.25		
障がい者福祉	4.20	4.14	4.36	4.33
高速交通ネットワーク	4.19	4.00	4.09	4.27
環境衛生	4.19	4.21	4.52	4.62
地域交通ネットワーク	4.18	4.00	4.22	4.27
子育て支援・児童福祉	4.18	4.10	4.21	4.32
防犯	4.18	4.10	4.38	4.43
交通安全	4.17	4.09	4.31	4.29
保健活動	4.16	3.95		
農業	4.15	4.00	4.40	4.42
上水道	4.15	4.27	4.36	4.36
下水道	4.12	4.15	4.34	4.36
観光	4.09	3.88	3.98	3.95
工業	4.09	4.02	4.18	4.14
市街地	4.08	3.80	3.82	3.88
男女共同参画社会	4.05	3.91	3.94	
母子保健	4.04	4.07		
環境保全	4.03	4.07	4.31	4.51
商業・サービス業	4.02	3.86	4.15	4.19
母子父子福祉・低所得者福祉	4.01	3.90	4.15	4.18
健康増進	3.97	3.88	4.00	4.25
行財政	3.97	3.87	4.43	4.55
消費生活	3.96	3.80	4.12	4.20
青少年の健全育成	3.95	4.08	4.26	4.42
街並み緑化・公園・景観形成	3.93	3.91	4.05	4.12
文化・芸術	3.91	3.75	3.56	3.93
住宅・宅地	3.88	3.79	3.82	3.88
土地利用	3.87	3.80		
林業	3.87	3.77	4.16	3.97
地域間交流・国際交流	3.84	3.51	3.55	3.90
人権尊重社会	3.80	3.69	3.76	3.97
高度情報通信ネットワーク	3.79	3.74	3.84	3.68
生涯学習	3.78	3.77	3.78	4.01
スポーツ	3.78	3.76	3.85	3.90
広域連携	3.78	3.56		
公共施設	3.74	3.69		
協働のまちづくり	3.69	3.65	3.79	3.89
コミュニティの育成	3.67	3.57		
水産業	3.61	3.47	3.59	3.97

- *10 平成22年は「健康づくり」
- *11 平成22年は「子育て支援」
- *12 平成22年は「消費者生活」
- *13 平成22年は「情報化」
- *14 平成22年は「高齢者の福祉」
- *15 平成22年は「街並み・景観」
- *16 平成22年は「国民健康保険」
- *17 平成22年は「働く機会・働く環境」
- *18 平成22年は「地域医療」

▽「世界最高健康都市の構築」に向けて

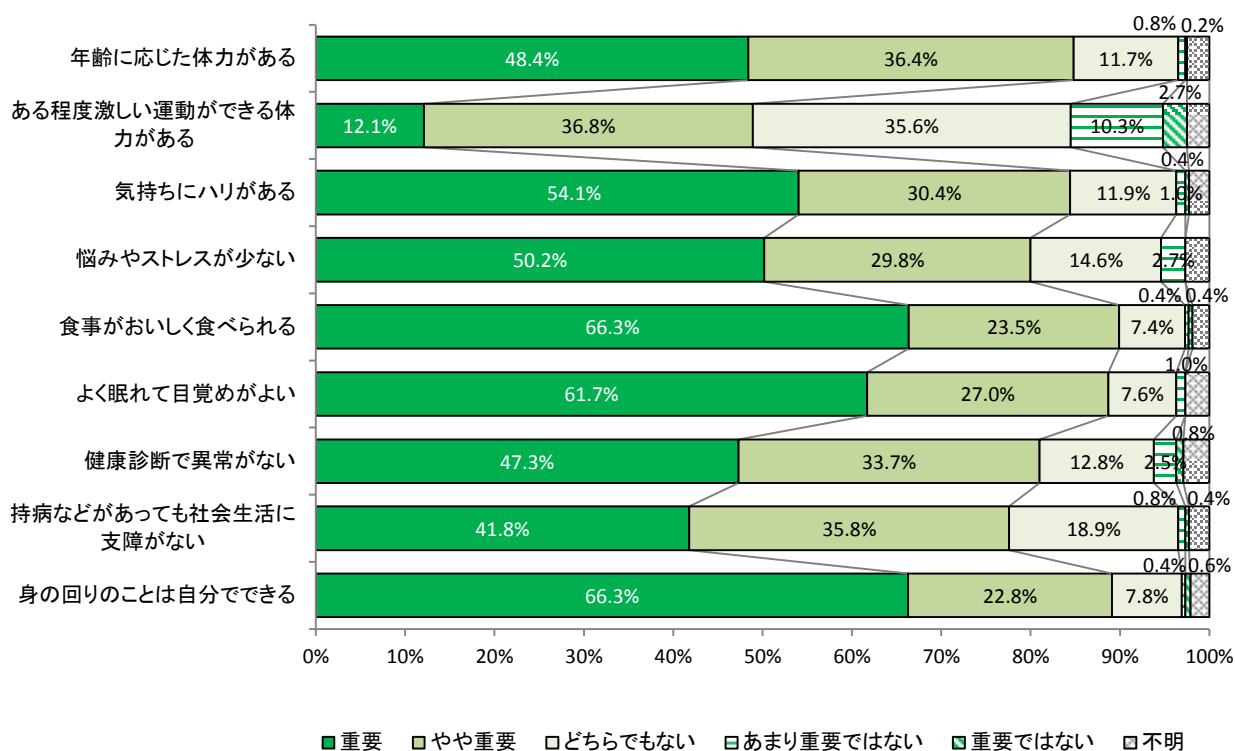
佐久市の住みやすさ

佐久市を「とても住みやすい」とした人は16.9%で、前回調査から1.2ポイント増加した。「どちらかといえば住みやすい」の58.2%と合わせて75.1%が住みやすいと回答した。一方、「とても住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」は全体で5.7%と前回調査から1.7ポイント減少している。



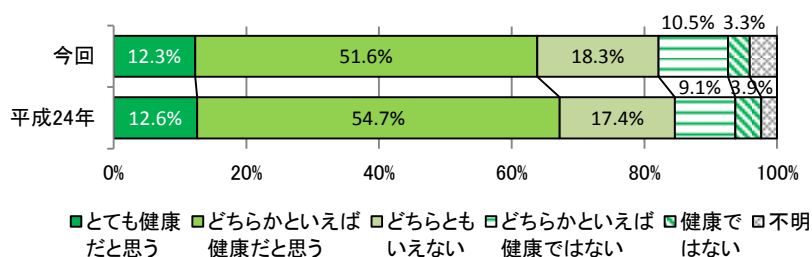
健康上重要だと思うこと

健康の状態をイメージするとき重要だと思うことは何か、9項目でそれぞれ重要度を答えてもらった。「重要」と「やや重要」の全体で最も高かったのは「食事がおいしく食べられる」の89.8%で、次が「身の回りのことは自分でできる」(89.1%)、「よく眠れて目覚めがよい」(88.7%)であった。ほとんどの項目で重要度が8割前後と高いが、「ある程度激しい運動ができる体力がある」は48.9%であった。



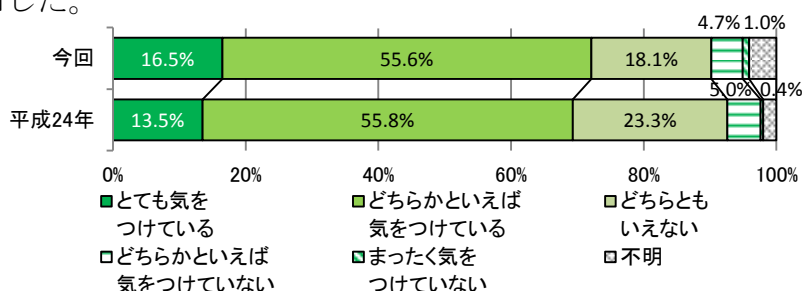
健康感

自分の健康についてどう考えているか質問したところ、「とても健康だと思う」は12.3%で、「どちらかといえば健康だと思う」51.6%と合わせて63.9%であり、前回調査から3.4ポイント減少した。



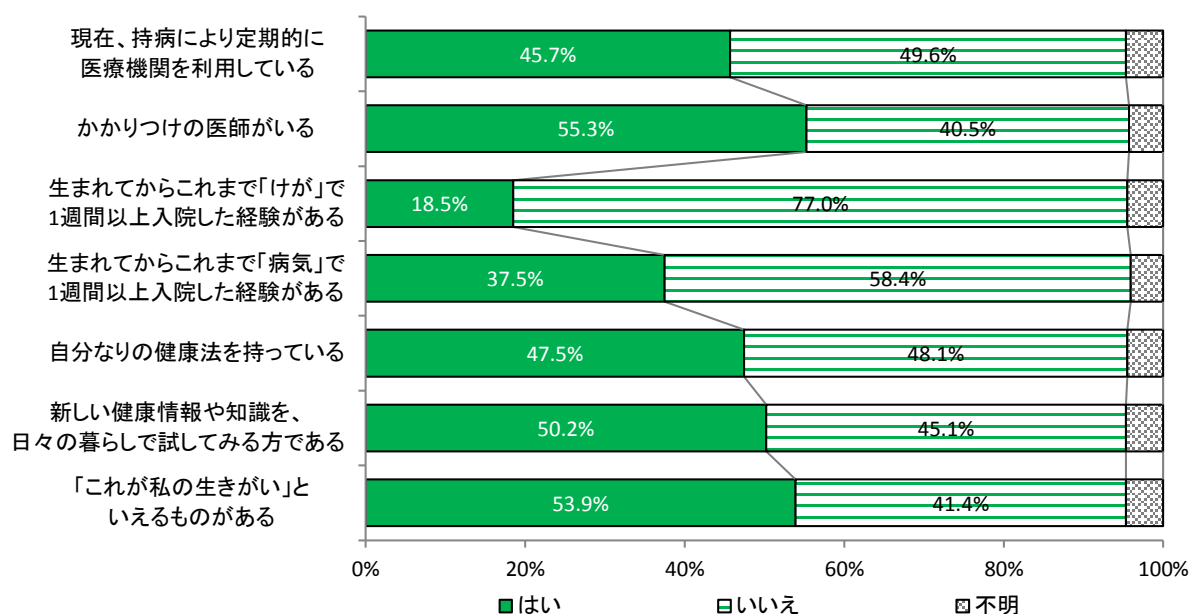
健康に気をつけているか

健康に「とても気をつけている」は16.5%で、「どちらかといえば気をつけている」の55.6%と合わせて7割以上が健康に気をつけている回答した。「とても気をつけている」は前回調査から3.0ポイント増加した。



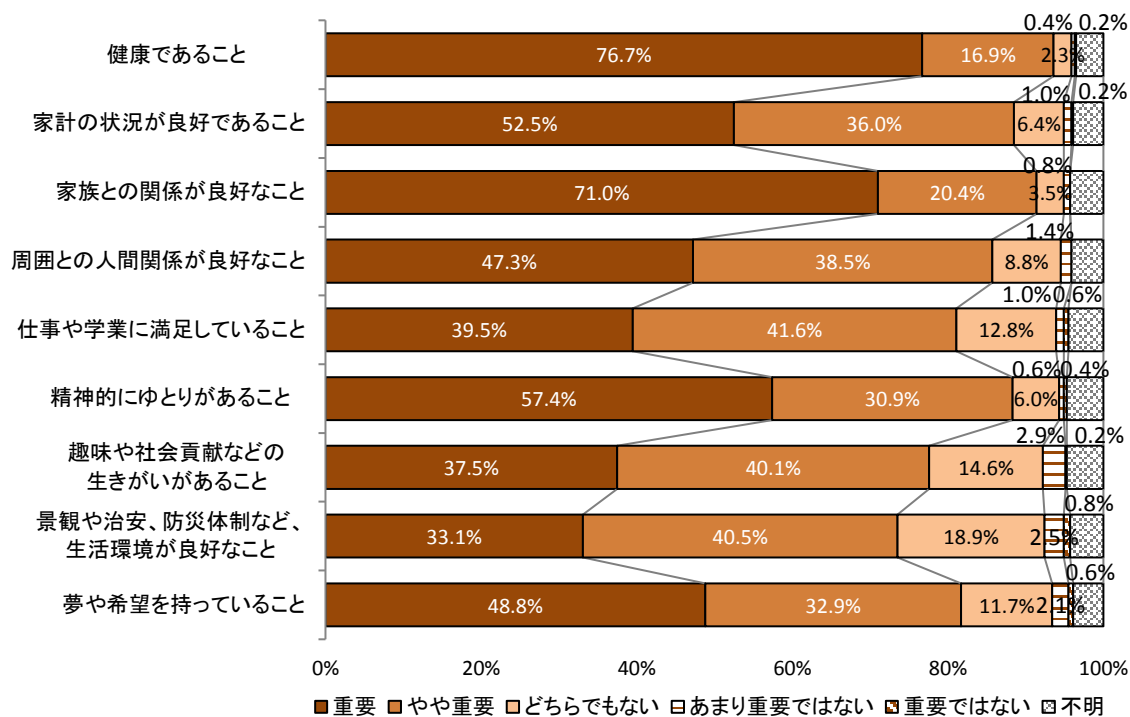
健康状態と意識

健康状態や健康意識について、7項目に「はい」「いいえ」で回答してもらった。「はい」が最も多かったのは「かかりつけの医師がいる」の55.3%で、次いで多かった項目は『これが私の生きがい』といえるものがある」の53.9%であった。以下、「新しい健康情報や知識を、日々の暮らしで試してみる方である」(50.2%)、「自分なりの健康法を持っている」(47.5%)、「現在、持病により定期的に医療機関を利用している」(45.7%)と続く。1週間以上の入院経験は「病気」が37.5%、「けが」が18.5%であった。



幸福感を判断するとき重要なこと

幸福感を判断するときに重要だと思うことは何か、9項目について5段階で重要度を質問した。「重要」と「やや重要」の回答が最も多かったのは「健康であること」の93.6%で、次に「家族との関係が良好なこと」が91.4%で、9割を超えている。以下、「家計の状況が良好であること」(88.5%)、「精神的にゆとりがあること」(88.3%)、「周囲との人間関係が良好であること」(85.8%)となっている。



幸福感

現在幸せだと思うか質問したところ、「大いに思う」は14.6%、「思う」は54.7%で、合わせて約7割が幸せだと回答した。

